第１学年Ｃ組　　音楽科学習指導案

指導者　中 安　統

１　題　材　名　　詩の言葉にあった旋律をつくろう
～模倣による創作表現～

２　題材の目標

歌詞の言葉のもつ特性を感じ取り、それらに気をつけて、リズム模倣などによる創作表現をすることができるようにする。

３　題材構成について

（1）生徒観

このクラスの生徒に対するアンケートでは、音楽の時間が「好き」と答えた生徒が 26 人中 24 人、「ふつう」と答えた生徒が 2 人、「嫌い」と答えた生徒は 0 人である。「好き」と答えた理由は、ほとんどが「歌ったり楽器を演奏したりするのが楽しい」である。このアンケート結果に表れているようにほとんどの生徒は音楽の時間を楽しんでいる。先日、校内の合唱コンクールが行なわれたが、合唱練習の際、どのようにすればよい合唱になるのかについて自分たちの歌った合唱の録音を聴き、考え、意見を出し合うなど前向きで主体的な取り組みが見られた。

創作の学習は中学校に入ってからは初めてである。みんなでいっしょに歌ったり、演奏したりするのとはまた違って、試行錯誤と集中力を必要とする活動だが、グループで助け合いながら進めることによって意欲的に取り組めるものと思う。

（2）題材観

第１学年の創作については「短い歌詞に節付けをしたり、楽器のための簡単な旋律を作ったりして声や楽器で表現すること」と指導要領に示されているように、この学年では、完成度の高い立派な曲をつくるというよりは、多くの生徒たちが曲をつくる喜びや楽しさを知ること、また、自分の作った曲を表現することにより、幅広い音楽の経験を得ることを目的とするものと考える。

多くの生徒にとって、何もないところから曲を作り出すということはかなり難しいことであるので、取り組みやすいよう学習を進めるということも含め、音楽学習の中で重要な模倣という活動を通して、短時間で行なえるまとまりのある曲づくりを展開したい。

既成の曲を歌ったり、楽器を演奏したり、聴いたりする活動と違い、自分自身で曲を作り上げた充実感、達成感はもちろん、作った曲を自分で演奏したり、他の人にも演奏してもらえることには大きな喜びを体得できるものと考える。

（3）指導観

創作は、音楽的な語彙の少ない生徒にとっては決してやさしいことではない。普段さまざまな音楽を聴いている生徒であっても、創造した旋律を記符することができないため、そこでつまずいてしまうというのが取り組みを妨げる一番の原因になっている。

音楽の時間の創作活動では、その過程において、生徒に音楽の仕組みを理解させたり、楽譜の基本的なルールを覚えさせたり、記号の持つ意味をいっそうはっきりと意識づけたりするには効果があると思う。このように創作活動は音楽活動を総合的にとらえ、創造力・理解力・思考力・ソルフェージュ力を育成し、歌唱・器楽・鑑賞の能力を高めることのできる活動であると思う。実際には楽器を使い、音を確かめながら創作していき、それを演奏することができる、歌うことができるというように進んでいく。これらの過程が楽器の奏法を定着させたり、音程感を身につけさせたりすることにもつながる。また、既成の曲を演奏するのではなく、自分の作った曲を演奏することへの喜びが意欲へとつながるものと考える。そうした中で、少しでも記符することができるようになれば音楽へのかかわりかたがより深くなることと思う。少ない時間でありながらも創作活動という主体的な活動を通して、

音楽の基礎的・基本的な内容の定着を図り、音楽性を高めていきたい。

　既成の音楽を演奏する楽しさを味わわせることと、自らの音楽を創作する活動の喜びを感じ取ることの両面から授業を構築していくことによって、生徒たちが音楽の魅力をより深く味わうことができ、もっと主体的に音楽の授業に取り組めるようになるのではないかと考える。

4　参考教材

「若者たち」

6　本時の計画

（1）ねらい

言葉の抑揚やアクセントの特徴を感じ取りながら旋律を作ることができるようにする。

（2）学習過程

学習形態	学習活動	教師のかかわり	評価の観点
一斉	・「若者たち」を歌う。	・歌詞の内容を考えながら充分に声を出すよう言葉をかける。	
	・学習のめあてを確認する。	・学習のめあてをしっかりと理解させる。	
グループ	①前時につくった短い詩の言葉のアクセントや抑揚を考える。	・“考える”とは、言葉の意味が伝わるようにするということ、アクセントの違いで言葉の意味が違ってしまう場合があることについて助言する。	
	・歌詞に点と線でアクセントの高低の図をつくる。		
	・アクセントの図をもとに、感情を込めて朗読し、自然な強弱や音高感をつかむ。	・グループのみんなが大きな声をあわせて朗読するよう助言する。	・言葉のリズムや抑揚、アクセントを感じ取って、音の高低などを工夫して旋律を作っている。（観察・学習シート）
	②①を参考にしながら、前時につくったリズムで旋律を考える。	・無理なく歌える音域であるか、歌いにくい音はないか、詩と旋律の雰囲気は合っているかなどについて助言する。	・言葉のアクセントや抑揚を考えて、意欲的に旋律づくりに取り組んでいる。（観察・学習シート）
	・リコーダーやキーボードを使用し、歌いながら旋律をつくる。 ※完成したら発表の練習をする。	・人任せになることなく、また、互いの意見を尊重しながら協力してやるよう助言する。	
	③本時の学習を振り返り、次時の学習の確認をする。 ・創作活動の進捗状況とグループでの活動がうまくいったかどうか発表する。	・次時の学習への意欲や期待感が膨らむように言葉をかけてまとめる。	・協力してグループの活動ができている。

5　学習活動と評価計画（総時数４時間）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力	題材の評価基準				使用する教材
					(ア)音楽への関心・意欲・態度	(イ)音楽的な感受や表現の工夫	(ウ)表現の技能	(エ)鑑賞の能力	「若者たち」
歌唱					・歌詞の言葉のもつ特性(自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低など)に関心をもっている。 ・リズム模倣や旋律模倣による創作表現をすることに意欲的である	・歌詞の言葉のもつ特性(自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低など)を感じ取っている。 ・リズム模倣による創作において、リズムや旋律の動きを感じ取っている。	・歌詞の言葉のもつ特性(自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低など)に気をつけて創作表現をする技能を身につけている。 ・リズム模倣や旋律模倣による創作表現する技能を身につけている。	・歌詞の言葉のもつ特性(自然なリズム、抑揚やアクセントによる音の高低など)に気をつけて聴いている。 ・リズムや音階について気をつけてよさを味わいながら聴いている。	
器楽									
創作	◎	◎	◎						
鑑賞	○	○		○					

時数	学習のねらい	学習形態	主な学習活動	学習活動における具体の評価規準（評価の方法）＊主になるもの				努力を要する生徒への手だて
				(ア)音楽への関心・意欲・態度	(イ)音楽的な感受や表現の工夫	(ウ)表現の技能	(エ)鑑賞の能力	
1	○創作活動にむけて音符や休符について復習する。	一斉 個人	・「若者たち」を歌唱する。 ・リコーダーでも吹いてみる。 ・「若者たち」のリズムに別の音を入れて、リコーダーで吹いてみる。 ・音符と休符の長さについて復習する。	・同じリズムで別の音と入れ替えて演奏してみることに関心をもって取り組んでいる。(態度や表情の観察・学習シート)				・そばで一緒にリコーダーを演奏したり、周りの生徒に働きかけたりして、かかわりを持たせるようにする。
2 本時②／2	○言葉に合うリズムを考える。	グループ	○短い詩をつくる。 ○「若者たち」のリズムを参考に、言葉に合うリズムをつくる。または、リズムを先に作り、それに合う歌詞を考える。	・言葉に合うリズム、または、リズムに合う歌詞づくりに意欲的に取り組んでいる。	・言葉のもつ特性を感じ取り、リズムに合う歌詞づくりをしている。			・そばでリズムを一緒に手拍子したり、リズムに言葉を合わせたりして、意欲を持たせるようにする。
	○言葉のアクセントや抑揚を考えながら旋律をつくる。	グループ	○言葉のアクセントや抑揚を考える。 ・「若者たち」のアクセント、抑揚と旋律を分析する。 ○アクセントや抑揚の特徴を感じ取りながら、リズムに合う旋律をつくる。	・言葉のアクセントや抑揚を考えて、意欲的に旋律づくりに取り組んでいる。	・言葉のリズムや抑揚、アクセントを感じ取って、音の高低などを工夫して旋律をつくっている。(観察・学習シート)			・一緒に言葉の抑揚を考えたり、記譜のしかたについてアドバイスしたりする。
1	○作った旋律を演奏し合い、感想を述べ合う。	グループ	○作った旋律を歌ったり、演奏したりし、お互いに発表し合う。 ○他のグループの作品発表を聴いて感想を述べ合う。			・自分たちが作った曲を協力して、歌ったり演奏したりすることができる。（観察・視聴）	・各グループの演奏を、言葉の抑揚と旋律に注意して聴き、意見を述べている。（発言、学習シート）	・グループのメンバーと協力して演奏しようとする姿勢、ほかのグループの演奏を聴こうとする姿勢を評価していきたい。